



早春、船越漁港にはイカカゴ漁の漁具がズラリと並ぶ

産業と経済

糸島市の産業と経済の規模は、表①のとおりです。市民の総所得（課税対象）は、約1140億円で、納税義務者数は、およそ3万8600人となっています。糸島の主要産業は農業ですが、労働力人口の8・6％しか農業に就業しておらず、この人数で糸島の農業が支えられています。また、漁業については、1

これからは、九州大学の移転や交通網の整備によって、市内の事業所は増え、業種も多種多様になるものと予測されます。

しかし、地域が元気になるには、地産地消に取り組み、地域内でお金を循環させ、地域産業を育成していくことが重要です。

そのためには市民のみなさんが、日ごろから、地域の物を地域のお店で買うことに心掛けるなどの取り組みが必要です。

表① 糸島市の産業と経済

項目	単位	年度	糸島市	前原地区	二丈地区	志摩地区
課税対象所得	百万円	19	113,959	81,474	14,378	18,107
納税義務者数	人	19	38,594	26,937	5,132	6,525
事業所数	事業所	18	3,041	2,164	365	512
第2次産業事業所数	事業所	18	539	347	72	120
第3次産業事業所数	事業所	18	2,489	1,813	291	385
労働力人口	人	17	50,252	34,231	6,925	9,096
就業者数	人	17	46,848	31,850	6,494	8,504
完全失業者数	人	17	3,404	2,381	431	592
第1次産業就業者数	人	17	4,802	2,332	876	1,594
第2次産業就業者数	人	17	9,019	6,096	1,296	1,627
第3次産業就業者数	人	17	32,596	23,144	4,173	5,279
雇用のある事業主数	人	17	1,678	1,112	209	357
雇用のない事業主数	人	17	4,662	2,751	703	1,208
市内で従業する就業者数	人	17	30,245	19,783	4,361	6,101
他市町村への通勤者数	人	17	21,975	16,235	2,397	3,143
他市町村からの通勤者数	人	17	5,372	3,911	688	773
農業従事者数	人	17	4,301	2,269	744	1,288
農業産出額	百万円	17	16,350	9,160	2,790	4,400
漁業従事者数	人	17	483	51	130	302
漁業陸揚金額	百万円	17	2,107	145	625	1,337
製造事業所数(4人以上)	事業所	19	79	41	17	21
製造事業所従業者数(4人以上)	人	19	2,000	698	764	538
製造品出荷額等(4人以上)	百万円	19	39,742	21,815	8,605	9,322
卸・小売業数	事業所	20	825	599	108	118
卸・小売業従業員数	人	20	5,435	4,034	594	807
卸・小売業年間販売額	百万円	20	97,749	77,197	10,248	10,304
観光入込客数	千人	19	4,041	1,352	1,208	1,481
標準価格(平均価格:住宅地)	円/㎡	19	—	57,400	26,400	33,400
標準価格(平均価格:商業地)	円/㎡	19	—	140,500	39,000	—

%未満で、従事者は志摩地区に集中しています。就業者の3分の2は第3次産業、2割近くが第2次産業に就業しており、市民税の税収のほとんどは、給与所得によって賄われています。

市内には、74の工場と825の卸・小売業がありますが、就業者の56％は他市町村に通勤しており、地域産業の育成は、今後の糸島市の大きな課題の一つです。

生活環境

市内の病院・診療所数は、123件（うち歯科診療所は43件）。医師数は191人（うち歯科医師は61人）で、8割近くが前原地区に集中しています（平成18年度）。また、国民健康保険に加入している人は、2万7037人で、人口の約28％になります。

市内の道路の総延長は、およそ1111km。そのうち、市道が約921kmです。小売店の数は1122件で、そのうち飲食店は333件となっています。市内から出されるごみの量は、年間およそ3万5000tで、1人当たり約359kgです。また、リサイクル率はおよそ27％で、志摩地区が30％程度と最も高くなっています。

豊饒の糸島、今、ひとつに

古代から中世にかけて「怡土郡」と「志摩郡」は中国大陸・朝鮮半島との交流の要衝にあり、外交・防衛のための遺跡や遺構が多く残されています。

明治29（1896）年に、雷山山系のふもとの地域の「怡土郡」と玄界灘に面した半島部の「志摩郡」が合併し、両地名を合わせ「怡土志摩」となり、「糸島郡」を形成しました。

合併当時、糸島郡には、19の村がありました。その後数回にわたる合併により、糸島の東部は福岡市

2 糸島市内16の小学校区の魅力を紹介

糸島には、各分野で頑張っている人がたくさんいます。潜在能力は高いのですが、残念ながら全国や世界に誇れるものが確立していません。行政に頼るばかりでなく、自分たちで見つけ、育てていくことが、今一番必要なことだと思います。

糸島ブランドを育てて全国区に
日高榮治さん(63歳)・志摩岐志

末端まで行き届く福祉の向上と充実を
江口富美子さん(70歳)・板持

民生委員をしていることもあり、福祉の向上と充実を望みます。都市化が進み、最近では隣近所のつながりが希薄になりつつあります。地域の見守りやお手伝いは、福祉の充実に必要です。人も地域も温かな糸島市であってほしいと願います。

世代間交流ができる都市になってほしい
志渡澤徳雄さん(87歳)・二丈長石

九州大学の周辺は若者がたくさんいます。しかし、末端の地域では過疎化が進んでいるのが現状です。

若い人たちに、田舎の魅力を知ってもらい、住んでもらいたいです。若い世代が増え、世代を超えた交流ができる都市づくりを望みます。

糸島市になってからも鐘を鳴らしします
大塚初音さん(93歳)・志摩桜井

昭和8年に炭鉱町だった鞍手の方からこの地に嫁いできました。寺の鐘を毎日、日没に合わせて10回突きます。町が市になっても、鐘を鳴らし、地域の人に知らせる習慣は変わりません。

桜井の良いところは、人情が深いことです。九州大学はすぐ近いです。

西区に、中央部は前原市に、北部は志摩町、西部は二丈町になりました。

平成22（2010）年1月1日、1市2町の合併によって糸島市が誕生しました。市域は216・12kmで、県下で7番目の人口は、10万人を超えます。わたしたちの郷土「糸島」は、土地が肥え、作物もよく実り、そこには心の豊かな人々が暮らしてきました。「広報いとしま」創刊号では、この「豊饒の糸島」を市内16の小学校区に分けて紹介します。